

ながの海ごみゼロプロジェクト

ながの海ごみゼロプロジェクト実行委員会

<上流県ながのから海をキレイに！>

長野県は日本海・太平洋に流れる8つの一級河川の原流域。上流県の責務として、いかにごみを海に流さないかが課題である一方、海がある県に比べ、海洋ごみ問題への意識が高いとは言えない。そこで当団体は、県内の美容業界と連携し、若者を中心に市民を巻き込みイベントとキャンペーンを実施し、海洋ごみ対策の機運を創出した。このほか、未来の海の保全を担う子供たちにごみ拾い活動と現状を学ぶ授業を展開。また、県内最大の湖・諏訪湖周辺の2市1町と連携した大規模清掃などを実施しプロジェクトを推進した。

2022年度 実施状況について

■取美容業界連携ナガコレクション

<課題・背景>
無関心層に対してのアプローチ及び美容意識の高さを環境美化意識につなげる。



・概要：県内最大級の美容ファッションイベント「ナガコレクション」の冠イベントとして実施。美容業界から海洋ごみ削減を啓発。
・目的：県内の美容業界と連携し、若者を中心に海洋ごみ対策の意識向上と美化活動を実施
・場所：長野市中心市街地 他
・連携先：美容室60店 美容ディーラー10社
・効果：各店舗に3Rアクセサリや海洋ごみポスターを展示。各美容師が海ごみゼロサポーターとして、お客との会話で啓発。実行動に移す客も。

■子ども海洋ごみ学習プログラム

<課題・背景>
海洋ごみの言葉の認知率は若年層で6割以下と低い。特に海がない地域はさらに高いと想定。



・概要：①【太平洋編】天竜川の源流・諏訪湖流域と遠州灘河口のプラごみの違いを現地調査。②【日本海編】千曲川（信濃川）流域の長野市の子どもが日本海海岸で海洋ごみ調査。
・目的：小学生に海洋プラスチックごみの現状と課題を学ぶ場を設け日々のアクションにつなげる
・場所：岡谷市、静岡県浜松市、新潟県上越市
・連携先：岡谷市、全国川ごみネット、長野市
・効果：教科書上でしか見たことがなかった海洋ごみの実情を知り衝撃を受け、他人事ではないと感じ、アクションを起こす決意をした。

■ラフティングごみ拾い体験学習プログラム

<課題・背景>
海洋ごみの約8割は内陸部から流出。山間部のごみも海に流れることが知られていない。



・概要：小学生がラフティングボートにより河川ごみ拾い。海洋ごみの実態の出前講座。
・目的：海から遠い山岳地域の子供たちに海ごみ問題を学習してもらうことで、上流から海を守る意識を高めるさせる
・場所：白馬村姫川
・連携先：白馬村、白馬EXアドベンチャー
・効果：山、川と海はつながっていると授業&活動で理解。海の出来事は長野県のことと実感。運営企業は、来期以降レジャー&川ごみ清掃をレギュラー商品として実施していく予定。

■自治体との連携清掃

<課題・背景>
31の河川が集まる諏訪湖底で近年マイクロプラスチックごみが発見されその対策が急務。



・概要：諏訪湖周辺の3市町村と連携し、春と秋の海ごみゼロウィークに合わせ一斉清掃を行う
・目的：太平洋へと注ぐ天竜川の源流・諏訪湖から海をキレイにする
・場所：諏訪湖周辺
・連携先：諏訪市、岡谷市、下諏訪町
・効果：清掃活動とともにごみの種類を調査。プラ由来のごみが87.8%であることが分かった。中でもプラ破片が多くこれがマイクロプラになり湖底や川、その先の海に流出。来期はより詳細な調査を実施予定。

その他：ゲーム感覚ごみ拾いイベント、CFB商品化企画を実施

メディア露出



5/12 「ふるさとライブ」
美容連携ナガコレクション



9/13 「ふるさとライブ」
子ども海洋ごみ 出前授業



11/6 「海につながる長野県」
子ども海洋ごみ現地調査



10/8 「NBS Live News イット！」
スポGOMI甲子園長野県大会

長野放送にて計98回放送（番組15回／CM80回／報道3回）

2022年度の課題とこれからの展望

海洋ごみ問題の認知度は上がっているがどこか他人事、他県事と感じる人がまだまだ多く、更なる啓発活動が必要。来期は、アニメ連携：北斗の拳企画をベースに行政、市民、企業を一つの事業で巻き込んだ一発で終わらない取り組みを実施したい。また、数値化にも一層こだわりたい。諏訪湖でのホットスポット調査を実施し、行政や教育現場でのデータ活用してもらう。このほか、これまで続けてきた子供向けの海洋ごみ教育や美容連携のナガコレなど市民参加型の海洋ごみ対策を実施していく。